TSUBOTAJUKU

「塾生の人生を応援する」
そんなコンセプトで贈る塾通信

★今月のトピックス★

「『子どもがテストを見せてくれない』とお悩みの親御様へ」

「プロになるには・・・？」

皆さんこんにちは！坪田塾です。
今月のトピックスも２部構成です！　ぜひ、ご一読ください！

●　２月の坪田塾カレンダー　●

月	火	水	木	金	土	日
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	

●　３月の坪田塾カレンダー　●

月	火	水	木	金	土	日
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

坪田塾
TSUBOTA JUKU

「『子どもがテストを見せてくれない』と
お悩みの親御様へ」

こんにちは。星ヶ丘校　講師の島田です。

今回のお話は、「『子どもがテストを見せてくれない』とお悩みの親御様」へのお話です。

ここに書いてあることを実践していただければ、

『子どもがテストを見せてくれない』という悩みは、きっと解消できるでしょう！！

1．　子どもたちは、なぜテストを見せないのか？

そもそも、子どもたちは、なぜテストを見せようとしないのでしょう？

その理由は、薄々わかっているかとは思いますが……

・見せると小言を言われる、または、責められる

・できていない自分を見せることが恥ずかしい

大抵はこの 2 点だと思います。

責められることが分かっていて見せたい人はいません！！

当然ですね^^;

でももし、理由が「責められるから」であれば、見せてもらうことは簡単です！

「責めないようにする！」だけですからね！

責めないようにし続ければ、見せることに抵抗はなくなるはずです！

さらに、テストを見せたときに、

できているところを認められれば、自分から見せに来るようになる可能性が高いです！

できていないところを責めるのではなく、「できているところを認める・褒める」

ことを習慣にしたいですね！

坪田塾
TSUBOTA JUKU

また、**見せるのが恥ずかしいという場合も同じです！**

できているところを伝えることで自信を持たせていきましょう！

今の教育の制度では、自分の良いところを見つけることは、非常に難しいです。

弱点の克服が第一で、弱点ばかりに目が行き、自己肯定感は下がる一方です。

だからこそ、まずは一番身近にいる保護者の方が、

子どもの「できているところ」を伝えてあげて、自信をもたせてあげてほしいです！

とにかく、どんな理由であれ、

『子どもがテストを見せてくれない』ときの対処法は、『認めること・褒めること』です！

「できていること」が分かれば、

「できていないこと」が見えてくるようになる効果も出てきますので、一石二鳥です！

2．テストを見せてもらう理由とは？

そもそも、テストを見せてもらう理由はなんでしょうか？

文句を言って、自分がスッキリしたいから？できないことを指摘してマウントを取りたいから？

違いますよね！？

子どもの将来を考えて、「できないことをできるようにするため」ですよね？

でも、残念ながら、**できないところをあげつらっても、子どもはできるようにはなりません！**

大抵は自我が芽生えて、反抗的になる時期でもあります。

「できていないこと」だけを指摘しても、本人は、より聞き入れなくなるだけでしょう。

童話の「北風と太陽」を思い出してください！

コートを脱がすために北風と太陽は、それぞれ何をしたでしょうか？

「できていないことをできるようにする」ために、「できていること」を伝えてあげましょう！

本人が自覚していない「できるところ＝強み」を、自覚できるようにしたいですね！

勉強だけでなく、日常のあらゆる場面でこれを続ければ、

積み木が土台からしっかり積み上がり、時代の変化に負けないように成長できます！

人は、『心配』されるよりも『信頼』される方が、ずっと成長します！

そして、『信頼』された分だけ大きく育ちます！

独り立ちできるように目いっぱい信頼してあげましょう！！(๑•`ㅂ•´)و✧

※最後に…

「扶養されている子どもが、保護者にテストを見せるのは義務だ！」

と思う方もおられるかもしれません。

それは、あながち間違いではないです。

しかし、それで本当に親御様の望む結果が得られるのでしょうか…。

例えば、

仕事で上司が下の者の気持ちを考えないで命令ばかりしてきたらどう思うでしょうか…。

上司の命令に従うことは義務かもしれませんが、

上司にだって部下と良好な関係を築くように努力する義務があるのではないでしょうか…。

良い関係が持続するよう**互いを一人の人間として尊重し合って**いきたいですね。

坪田塾
TSUBOTA JUKU

「『プロになるには・・・？」

みなさん、こんにちは！名古屋 赤萩校、講師の村瀬です。

今年の冬は暖冬で、暖かい日が多いですね～^^
みなさんはどうお過ごしですか？？

わたしは、先日スノーボードをしに雪山に行ってきました(*'▽')！

なんと運がいいことに、
友人の友人が元プロのスノーボード選手ということで、
昔プロだった方２名とスノボーをご一緒させていただきましたっ！！

昔は、第一線で活躍して日本ランク１位にもなった方にスノボーの基礎基本を教わり、
たくさん滑って滑って滑って、、、
尻もちをつくのがかなり減り、楽しくスイスイ滑れて、スノボーにハマりそうな予感です！
（ですが、今年は暖冬なのが残念です・・・。雪がとけてしまうので笑）

スポーツ界のプロというと、、
イチロー、松井秀喜、長谷部誠、大阪なおみ、錦織圭、八村塁、ラグビー日本代表

などたくさんの方が思い浮かばれますよね。

プロとは、何かの分野を極めた一流の人々で、
実際にプロとして活躍していた人とこんなに近くに居れるなんて体験は、
私は人生で初めてだったので、好奇心がかなり駆り立てられまして（笑）
色々な質問をしたり話しかけたのですが、その中でとても印象に残ったことがありました。

「どうしてプロになったのですか？？」

と聞くと、

「いい質問だね〜〜！😊」

「スノボーを始めた 20 才のころ、当時付き合っていた彼氏がスノボーをしている人で、

必然的に自分もやるようになったの。

そのころ北海道に住んでいて、20 分くらい行けば雪山があったから、

仕事終わりにスノボーに行くようになったのよね。」

「当時は競技人口も少ないってのもあったけど、

そこで滑っている人たちはみんなプロか**プロを目指している人**たちだったのよ！

それが**当たり前**の環境だったから、

スノボーをやる＝プロになる のが当たり前って思ってたのよね〜」

「もしそこにいる人たちが、趣味程度でスノボーをやっていたら、

私は絶対プロになってなかったわ。**環境がすべて**なのよ〜」

と答えてくれました。

この方は、

スノボーのプロを目指してプロになったのではなく、

まわりの環境が彼女をプロにしたそうです。

なるほどな〜と聞いていて納得しました。

もし、一流のサッカー選手になりたかったら、

サッカー選手の本田圭佑からアドバイスをもらうのか、

近所のおじさんからアドバイスをもらうのかどちらがいいでしょうか？

もし、学校の部活で、全国大会での優勝を目指しているとします。

全国大会を本気で目指している人たちと一緒に練習するのか、

地区大会優勝を目指している人たちと一緒に練習するのか、

どちらが目標に近づけるでしょうか。

環境は、
自分の求める結果を得るために活用できる
有効な手段の一つだと思います。

勉強も同じです。

・医学部に行きたい人は、実際に医学部に合格した先生にアドバイスをもらう。
・勉強を得意にしたかったら、テストが学年 1 位の子に話を聞いてみたり、
　学校の中で勉強を頑張っているグループに居るようにしたり、毎日塾に通うようにする。
・英語を話せるようになりたかったら、留学生と常に行動してみる。

勉強がうまくいかない・・・

という方は、環境を変えてみてはどうでしょうか！

第一志望に受かって当たり前、

それぞれの子の可能性を見出して自主性を引き出すのが当たり前、

塾生みんなが、塾生の人生を応援し合う

そんな素敵な環境をつくれるように、まずは私自身ががんばろうと思いました！

坪田塾
TSUBOTA JUKU